

第41回秋田県生協大会を開催しました



10月17日(金)秋田市のイヤタカを本会場に、県内各地の全6会場をオンラインで結び開催し、組合員・役職員78名が参加しました。

ご来賓に日本生協連北海道・東北地連 事務局長の丸谷靖朋様を迎え、生活協同組合コープさっぽろ地域政策室室長 成田智哉氏の講演「協同組合と共助型プラットフォームが一体となった取り組みについて」と、今年8月に開催した2025ピースアクション in ヒロシマの参加報告を行いました。

成田氏の経営されるミーツ株式会社はコープさっぽろの関連会社でもあり、コープさっぽろで成田氏は地域政策室室長として北海道に根ざした地域課題の解決に取り組んでおられます。ミーツと生協の出会い「協同組合」×「共助型プラットフォーム」という基盤を構築し、一層地域へ貢献できる体制を整えました。

成田氏が提唱される「ぬくもりのあるコミュニティ」は地元・厚真町で始めた家族のようなつながりを目指す事業から端を発し、コープさっぽろとの連携で生まれた相乗効果により、更なる発展を遂げています。より広く、より多くの地域課題の解決に向け新たなチャレンジを続ける成田氏の素晴らしい取り組みを学ぶことができました。



ご来賓 丸谷事務局長

山野内会長理事

成田智哉氏

亀山孔明さん、勇人さん、悠佳さん

本会場の様子

コープあきた組合員の亀山孔明さん、勇人さん(小学6年生)悠佳さん(小学3年生)の親子3名による2025ピースアクション in ヒロシマ参加報告では、映画の鑑賞や分科会への参加を通して、全国の生協の仲間と共に学んだ戦争の歴史や、平和への想いを報告されました。お子さんたちは戦争の悲惨さ、平和な世界への願いを感想文で伝えてくれました。被爆・戦後80年の節目を迎え被爆体験者が高齢化し戦争の記憶を伝え継ぐ必要性がますます高まる今、平和について考える貴重な機会となりました。

大会決議は◆安心して生活できる災害対策や社会保障制度の構築を求めること◆被爆・戦後80年を迎え誰もが安心して暮らせる世界を目指し、核兵器の廃絶と、平和の願いを若い世代へ継承する活動に取り組むこと◆IYC2025 国際協同組合年を機に県内の協同組合が連携し、食の安全、平和活動、社会貢献の取り組みを進め、持続可能な社会の実現を目指すこと◆を満場一致で採択しました。

IYC 国際協同組合年「協同組合の森」記念植樹を行いました



2025年は国連が定めた国際協同組合年で、協同組合の発展と認知度向上を目指す年となっています。

10月20日(月)、由利本荘市 八塩いこいの森にて、県内の森林組合連合会の主催で13の協同組合の代表が集まり、サクラや紅葉などの苗木計15本を植樹しました。県生協連から村井健児理事、会員生協のコープあきたから工藤聡総務部長(県生協連 監事)が出席し、植樹を行いました。



出席された皆さん

この植樹により県内の協同組が連携を深め、持続可能な社会に欠かせない森を未来へつなごうという思いが込められています。

こうして植えられた苗木が月日を経て成長し、四季を通じて秋田の景色を彩る日が楽しみです。

東北6県生協連の代表が 東北経済産業局へ灯油要請行動を実施しました



東北に住む私たちにとって暖房は不可欠であり、灯油はその主力エネルギーとして欠かすことのできない生活必需品ですが、2025年の配達灯油価格は過去に例を見ないほどの高い価格水準となっています。そこに生活必需品の値上げが相次ぎ、私たちの家計は益々厳しい状況です。

本格的な需要期を前に灯油価格の抑制とエネルギー価格・物価高騰のための施策を消費者の立場から求める要請行動を10月30日(木)に実施し、出席者を代表して県生協連の阿部一哉常務理事が東北経済産業局に要請書を提出しました。



要請書を提出する県生協連阿部一哉常務理事(右)と東北経済産業局小川竜二郎課長